

たかはし ひでのり 高橋秀典県議会レポート

発行 / 自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

東総地域に経済効果を

成田空港の機能強化

旭市選出で東総地域の発展に情熱を注ぐ高橋秀典議員は、9月県議会一般質問に登壇。成田空港の機能強化による経済効果を、東総地域まで広げよう強く訴えました。また、海業の積極的振興、洋上風力発電の余剰電力活用のほか、体験型観光、九十九里の防災林、水稲の高温対策、豚熱対策など将来を見据えた質問で、当局の回答を求めました。その概要をお届けします。

9月県議会一般質問

◀9月県議会一般質問に登壇した高橋秀典議員

機能強化による経済効果
高橋議員 国交省は、今後の成田空港における施設面の機能強化について、検討会を立ち上げ、9月24日、第1

回の会議が開催された。県からは穴澤副知事が出席され、成田空港の機能強化が国家プロジェクトとして動き出したと実感している。



7月に示された「新しい成田空港」構想をとりまとめ20では、地域と空港との相互連携による一体的・持続的発展が掲げられた。これまでは、関連9市町との協議がベースだったが、人口減少の続く成田以東の地域にも大きなチャンスであると考える。

今後7万人とも言われる人材を考えると、より広域での募集や住居の確保が必須で、人口減少を食い止める大きなチャンスである。旭市など通勤圏内となる9市町以外の市町村では、今後のまちづくりに重要なファクターとなっている。

成田空港の機能強化による経済効果について、9市町の外側にも広げる必要があると思うがどうか。
総合企画部長 成田空港の更なる機能強化により、旅客や貨物取扱の大幅な増加が見込まれる中、空港を起点とするヒト・モノ・投資を、空港

周辺9市町はもとより、県全体の経済活性化につなげていくことが必要です。
このため、県や経済団体等が参画する成田空港活用協議会において、航空・空港関連企業と県内の食品事業者を結ぶビジネス創出支援やイノベーション等に向けた市町村との検討会等に取り組んでおります。今後、こうした取組の充実を図り、具体的な成果につなげて成田空港の機能強化による経済効果が県全体に広がるよう努めます。

洋上風力発電の余剰電力

避難所等に活用も

余剰電力の活用
高橋議員 本年6月の欧州視察で、ドイツ・オランダを訪問し、再エネの転換に向けた取組や再エネを利用した水素の製造・利活用などエネルギー政策を学んできた。

特に印象に残っているオランダの取組は、洋上風力発電の電力で水素を製造し利活用を進めるプロジェクトが官民挙げて戦略的に行われていたことである。

例えば、災害時に避難所となる施設や地域の基幹的な施設に蓄電池を設置し、そこに余剰電力を活用することも考えられる。これは、洋上風力発電を進める地域のメリットとして、またフェーズ1の観点にも沿うものである。そこでどうするか。

その一方で、水素や蓄電池の利活用が進むためには、導入コストの低減や装置の小型化に課題があることから、県としては、技術開発の動向等を見据えながら、余剰電力の効果的活用方法について検討を深めてまいります。

海業を積極的に推進

「海業推進構想」の推進

高橋議員 海業―既存の漁港施設等を活用し、漁業水産業を核にした複合的な拠点をすることは、漁業水産業の持続的発展に向けた効果的な取組として期待され、地域の新たな魅力の創出にも繋がるものである。

現在、地元旭市では飯岡漁港と周辺の未利用地を活用した漁業拠点を公民連携で実現すべく検討を開始した。これが実現すれば、成田空港から一番近い海業拠点として、釣りやサーフィン、キャンプ、海産物販売や地元食材を生かしたレストランなど、複合的な産業拠点になるものと期待している。

一方、県では本年度内を目途に「海業推進基本構想」を策定するという。そこで伺う。「海業推進基本構想」の策定をどのように進めていくのか。
農林水産部長 県では、学識経験者や漁業代表者からなる「千葉県海業基本構想策定検討会」を設置し、8月30日

に第1回目の会議を開催したところだ。この会議では、県内4地域ごとの特性を示すとともに、基本構想の構成について協議し、出席委員からは、本県の優位性を生かした観光客の取り込みや現実的な取組の検討について意見が出されました。

次回会議では、委員の意見や漁協のヒアリングなどを踏まえ、県内4地域ごとの目指す姿や、漁業者や民間企業の取組の方向性等について協議し、

その後、パブリックコメントなどを経て、年度内を目途に基本構想を策定してまいります。
要望 現在、海業による地域活性化支援事業による支援は、地域の海業推進計画の策定に係る経費等を対象としているが、計画策定後についても、調査やコンサルティングなど専門的な技術や知見を活用する際において活用できるように、柔軟な制度の運用あるいは拡張するようお願いしたい。

また、千葉県で検討されている3地域のウィンドファームからの電力で水素を生産、その水素を臨海地域で製鉄等の一部にも活用するといふ、わが県の特性を生かした再エネ活用ビジョンを、様々な課題はあると思うが、地域エネルギー戦略のモデルとして示していただきたい。

新たな魅力の創出へ

体験型観光の推進



自席から質問する高橋秀典議員

体験型観光の取り組み

高橋議員 昨今の旅行の形態は観光地を巡るものから、普段できない体験、そこでしかできない体験を求めるツアーの人氣が高まっている。

千葉県は観光地としてのポテンシャルが非常に高い地域で、それらを活かした体験型観光は観光客にとって魅力的な選択肢となり得る。

体験型観光の推進について

知事 豊かな自然や豊富な食材、多様な文化を有する本県において、アウトドアやスポーツ、食や伝統文化などの体験型観光は誘客を図る上

で、極めて重要な取組と考えています。そこで県では、民間事業者等が実施をする付加価値の

九十九里をブランド化

九十九里地域の取り組み

高橋議員 九十九里浜は、千葉県を代表する観光地で、全長約60kmにわたる美しい砂浜は千葉の宝として次世代に引き継ぐ責務がある。

そうした中、九十九里エリアの地域振興事務所管内で、各市町と連携したブランド

高い観光コンテンツの開発造成などに対する支援を通じて、体験型コンテンツの充実にも取り組んでまいりました。また、9月から、サーフィンやSUP、ダイビング、パラグライダー等のアウトドア・スポーツ体験プログラムについて、割引キャンペーンを実施しており、開始から3週間で千名を超える方に御利用いただいております。

このほか、海外からの需要にも対応できるよう郷土料理作りや伝統工芸品の制作等

の体験プログラムについて、外国語対応等の支援も行う予定で、引き続き、県内体験型観光による誘客の促進に取り組んでまいります。

たい。まずはやってみる、好きになってリピーターになるという流れを作り、体験型観光の推進と定着を進めていただきたい。

県有保安林整備指針に基づき、砂丘造成や植栽による整備を進めているところです。砂丘造成は、平成28年度に、約13km全ての工事を完了し、また、植栽は整備が必要な約250haの海岸防災林のうち、7割程度の約170haの整備が完了しております。今年度は、一宮地区を中心に約13haの整備を計画しており、引き続き、海岸防災林の復旧・整備に向けた取組を進めてまいります。

進む海岸防災林整備

防災林造成の整備状況

高橋議員

東日本大震災では、旭市には最大7.6mの津波が襲来し、尊い命が失われた。当時の報告では、海岸部に防災林などがある場所と、そうでない場所では、明らかに津波被害の程度に差があった。

県では、防災林造成事業などにより整備を進めているというが、九十九里地区の整備状況はどうか。

携を深めながら、地域活性化に努めてまいります。

要望 様々な既存製品のブランドイメージの統合も視野に入れ、多様な主体を取り込んで、ぜひ九十九里ブランドの構築と発信を強力に進めていただきたい。

要望 海岸防災林は、日常の多面的な有用性をもち、フェーズフリーな価値を持つものとなることから、そうした面についても考慮し、早急な整備を進めていただきたい。

根本的な豚熱対策急ぐ

豚熱発生時の対応

高橋議員 豚熱発生時の殺処分について、県内の生産者団体からレンダリング装置による熱処理の後、焼却処分する方法について要望があったという。県の考えはどうか。

要があり、必要な装置については、国が自治体に対して貸与できる体制を整えています。

要望 豚熱対策及び万が一の発生時に生じる様々なコストを考えた時に、媒介とされる野生イノシシを減らしていくことと、できれば、根絶することを目標に掲げていただきたい。また、防疫上の観点からの駆除について、予算措置を含め考えていただきたい。

千葉県が誇る豚肉を、養豚農家が誇りをもって安心して生産し続けられるよう、よろしく願います。

水稲の高温対策を

水稲への高温の影響

高橋議員 夏の高温により、作物の生育障害による収量減、病害虫の増加による被害、土壌の乾燥・水分不足による生育不良など、多くの影響があり、影響を受ける作物も多岐にわたる。温暖化対策とともに高温化への「適応策」を的確に進めることは重

要だ。今夏の水稲生産における高温の影響をどのように捉え、県としてどのように技術的対策を講じてきたのか。

知事 水稲生産では、稲穂が出てから20日間は高温の影響を受けやすいとされていますが、早場米の産地である本県では7月がこの時期にあ

たり、昨年と比べると最高気温・最低気温ともに高い日が多かったことから、高温対策は喫緊の課題だと認識しています。

本県では、本年5月に公表された気象庁の長期予報では、平年よりも高い気温が予想されていたことから、県では、6月に高温対策マニュアルを公表する

とともに農家への技術指導を徹底してきたことに加え、生育状況を踏まえ、例年よりも早い稲刈りを呼び掛けてきました。

今後は、近年の夏季における気温上昇を踏まえ、栽培管理の更なる改善策を検討するとともに、県育成品種である「ふさおとめ」を基軸とした高温耐性を持つ品種の開発を進めるなど、高温環境下でも順応できる水稲生産対策に取り組んでまいります。

農林水産部長 豚熱発生時には、速やかに埋却または焼却処分することとなり、豚を焼却する場合は、高熱・高圧をかけて処理するレンダリング処理を行う必

●県政と旭市に関するご意見をお寄せください。

高橋秀典 県議事務所

〒289-2516 旭市口-1551-4

TEL.0479-62-6896 FAX.0479-62-6897

Eメール:mail:keimeikan@gmail.com